

02R eport

第2回 2009年5月15日(金) 16:00~19:00 於：東京大学工学部1号館景観研究室

受け継いできたもの、受け継いでゆくもの - 長野 小布施 報告レポート

GS 連続シンポジウムの第2回が、5/15に開催された。場所は、東京大学景観研究室。シンポジウムとは、話し手が一方的に聞き手に情報を伝達するものではなく、まちづくりの現場の熱意や、それに取り組む人の意気込みを共有する場であってほしいからである。小布施から来た意欲的なまちの担い手たちの、あたたかくも真剣なまなざしが、多くの来場者と共有できたなら、幸いである。今回、会場にお越し頂いた方がたよりのメッセージを掲載しているので、あわせてご覧いただきたい。

「地」の風景

それが、何故かは説明できないけれど、将来、どこか死に場所を見つけて定住したとしても、その町のまちづくりには口を出さないだろうなと思っている。そんなこともあってか、各地の観光まちづくりについては、常々、観光業と関係ない人々はどう思っているのか、作り込まれた場所以外の「地」の風景はどうなっているのかが、気になっている。セーラさんは、「地」の風景を守り育てるため、職人さんを育てている、という。驚いた。とてつもなく射程が長い。いつの日か、小布施の人々が、黙々と当たり前のように自らの町を、風景を繕う姿が見えた気がした。

上島顕司（国土技術政策総合研究所）

まちづくりにおけるプライド

小布施の方々のまちづくりにおけるプライドがとてもよく見えるシンポジウムだった。セーラさんの熱意、町民の方々の知的好奇心の源がどこにあるのか？ルーツがとても気になった。寺子屋が盛んだったこと、厳しい気候で生活の知恵が必要だったことなど、歴史的経緯から来ているのだろうか…民間や個人の力が大きかった小布施は条件として恵まれているところがあったのかもしれない。まちづくりにおいて、予算や体制といったハード面での難しさは日々感じるころではある。しかし人々の気持ちには、そういった面を覆せるほどのパワーがあると信じたい。いかにして発掘、継承、拡大していくのか、ソフトの面の整備も今後必要になってくるのではないかと思う。

太田晴子（株式会社イワタ）

五感すべてを使ったイベント

小布施の町を拝見させて頂いた際のことを、頭に思い浮かべながら楽しく参加させて頂きました。様々な分野の方々が活躍なさっている中、空間を作り上げていくというスケール大きさ、人の気持ち加わるなど、とても夢があるものだと思います。実際に見る、聞く、感じる、話をする、想像する、味わう、触れるなど五感すべてを使った私のなかでのイベントでした。また、自社、私自身もどんなことが出来るかと考えて頂いた時間でした。市民の方々と行うワークショップも是非、拝見させて頂きたいと感じました。

清水彩菜（株式会社イワタ）

「いい街を創ろう」という意気込み

今回のシンポジウムに参加するにあたり、実際に小布施町へ行き街づくりを自分の目で確認をし、感じさせることをさせています。それを踏まえてシンポジウムに臨むようにさせていますが、まだまだ経験の浅い社員ですが、「いい街を創ろう」という意気込みだけはあります。私も毎回参加させていただいていますがとても楽しみにしております。個人的には、出来れば以前三重や長崎であったように現地見学を兼ねてシンポジウムが企画されると良いかと思います。

永田浩二（株式会社イワタ）

「小布施は僕らがつくれます」

印象的な話を伺えました。話はどの面から切っても面白かったのですが、「小布施は僕らがつくれます」と宣言された(株)修景事業の金石さんの熱さが僕の心に最も強く残りました。かく言う私は小布施の隣の出身であり、長野で頑張る若者を見て負けてられない気持ちになったからです。金石さん(株)修景事業の次なる展開は、屋根の景観保全をねらいにした瓦焼きだとか。パワーと発想に感心しきりでした。今後ますますのご活躍を祈願します。

横関隆登（株式会社オリエンタルコンサルタンツ）

文責：GSデザイン会議

川添善行（東京大学助教）
zoe@keikan.t.u-tokyo.ac.jp